

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

選択, 記述, 計算

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

今年も論述問題が出題されなかった。

その他トピックス

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 計算 記述	反応速度 気相平衡 電離平衡	化学	アンモニアを題材に反応速度, 圧平衡定数と濃度平衡定数の関係, 圧平衡定数の計算, 弱塩基と緩衝液の pH の計算などの総合問題である。	標準
II	選択 記述 計算	アルカリ金属 結晶 熱化学 熔融塩電解 アンモニアソーダ法	化学	アルカリ金属をテーマに, イオン化エネルギー・イオン化傾向・密度の大小関係, 熱化学, 塩化物の熔融塩電解, アンモニアソーダ法などの総合問題である。	標準
III	記述 選択	有機化合物の 構造推定	化学	芳香族エステルの構造推定である。	標準
IV	記述 選択 計算	アミノ酸	化学	アミノ酸の基本的事項, 滴定曲線, アミノ酸混合物の分離, 中性アミノ酸の等電点などの内容である。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 理論・無機・有機とまんべんなく学習しておくこと。
2. 基礎的な事項を十分整理しておくこと。
3. 論述問題は努めて平素から書く練習をしておくこと。
4. 問題演習を十分に行っておくこと。